

# 野村萬齋

## 狂言

### 公演



**日時** 2024年5月4日(土)

12:00開場 13:00開演

**会場** J:COM北九州芸術劇場

福岡県北九州市小倉北区室町1-1-1-11 リバーウォーク北九州内

**演目** 解説 野村萬齋

二人袴 野村萬齋 高野和憲 月崎晴夫 野村裕基  
佐渡狐 深田博治 内藤 連 石田幸雄

**発売日** 全席指定 2月10日(土)発売

**チケット料金** S席 10,000円 A席 7,000円 B席 5,000円 大学生以下 2,500円

**チケット取扱場所**

J:COM北九州芸術劇場 TEL 093-562-2655

山本法律会計事務所 TEL 0979-24-4321

武蔵屋総本店 TEL 0979-22-1191

主催：公益財団法人ケア・インターナショナルジャパン  
ケア・サポーターズクラブ北部九州

後援：中津ロータリークラブ・国際ソロプチミスト豊前・中津青年会議所

解説

野村 萬齋

小舞

八島

後

金澤

桂舟

地謡

石田

博治

内藤

幸雄

二人袴

親

野村

萬齋

太郎冠者

舞

野村

裕基

後見

金澤

桂舟

高野

和憲

月崎

晴夫

佐渡狐

佐渡の百姓

深田

博治

越後の百姓

奏者

石田

幸雄

後見

野村

裕基

休憩十五分

【あらすじ】

佐渡狐 さどぎつね

年貢を納めに都へ上る途中で道連れになった佐渡と越後のお百姓。佐渡に狐のいるいないを巡り賭けをすることになったが、実は佐渡に狐はおらず、狐を知らない佐渡のお百姓は、奏者(取次の役人)にワイロを使い味方についてもらう。しかし奏者の「佐渡に狐はいる」という判定に納得のいかない越後のお百姓に、狐の形格好を問いただされ…。

越後のお百姓の追及に必死で答える、佐渡のお百姓と奏者の連携プレーが見どころです。世相を風刺しつつ、中世の人々のたくましく生きる姿が笑いの中に描かれた狂言です。

二人袴 ふたりばかま

今日は聾入り(結婚後、妻の実家に初めて挨拶に行く事)の日。舅の家では準備を整え、聾が来るのを心待ちにしている。一方の聾は、一人で行くのは心細いからと父親に舅の家の門前まで付き添われてやってくる。聾に礼装の長袴をはかせてやり、父は表で待っていたのだが、太郎冠者に見つけられてしまい、父親も舅に挨拶することになってしまう。しかし、長袴は一つだけ。さて、この親子はどうやってこの場を切り抜けるのか…。

明るめでたさのある聾狂言の代表曲です。天真爛漫な聾とそれに慌てる父親の、舞台上から漂う何ともほのぼのとした雰囲気をお楽しみ下さい。

【プロフィール】



野村 萬齋  
のむら まんさい

1966年生。祖父・故六世野村万蔵及び父・野村万作に師事。重要無形文化財総合指定保持者。東京藝術大学音楽学部卒業。「狂言ござる乃座」主宰。国内外で多数の狂言・能公演に参加、普及に貢献する一方、現代劇や映画・テレビドラマの主演、舞台『敦一山月記・名人伝一』『子午線の祀り』能狂言『鬼滅の刃』『ハムレット』など古典の技法を駆使した作品の演出で幅広く活躍。現在の日本の文化芸術を牽引するトップランナーのひとり。現代に生きる狂言師として、あらゆる活動を通し狂言の在り方を問うている。94年に文化庁芸術家在外研修制度により渡英。芸術祭新人賞・優秀賞、芸術選奨文部科学大臣新人賞、朝日舞台芸術賞、紀伊國屋演劇賞、毎日芸術賞千田是也賞、読売演劇大賞最優秀作品賞、観世寿夫記念法政大学能楽賞、松尾芸能大賞を受賞。著書に『萬齋でござる』『MANSAI◎解体新書』(朝日新聞出版)、『狂言サイボーグ』(日本経済新聞社/文春文庫)等がある。石川県立音楽堂邦楽監督。東京藝術大学客員教授。(公社)全国公立文化施設協会会長。



石田 幸雄  
いしだ ゆきお

1949年生。野村万作に師事。重要無形文化財総合指定保持者。すでに数多くの優れた舞台歴を持つ野村家の重鎮。大曲の『三番叟』『釣狐』『花子』をすでに初演。国内外で狂言・能公演に多数参加、普及に貢献している。主宰していた「雙ノ会」で芸術祭大賞、個人で観世寿夫記念法政大学能楽賞受賞。大胆かつ緻密な演技で、古典はもとより新しい試みの舞台でも存在感を見せる。普及公演での的確な解説にも定評がある。



深田 博治  
ふかた ひろし

1967年生。野村万作に師事。国立能楽堂・能楽三役第四期研修修了。重要無形文化財総合指定保持者。万作一門の研鑽会「狂言ざん座」同人。すでに『奈須与市語』『三番叟』『釣狐』『金岡』等を抜き、「万作の会」の演者の一人として国内外の狂言・能公演に出演。朝日カルチャーセンターをはじめ、全国各地での狂言講座、ワークショップで講師を勤め、狂言の普及に力を注いでいる。出身地・大分で「狂言やっとな会」を主宰している。



野村 裕基  
のむら ゆうき

1999年生。野村萬齋の長男。祖父・野村万作及び父に師事。慶応義塾大学法学部卒業。能楽協会会員。3歳の時に『靱猿』で初舞台後、子方として国内外で多数の舞台に出演。修業を続け、『三番叟』『奈須与市語』、2022年10月に『釣狐』を抜き、「万作の会」の若手狂言師の一人として舞台を勤めている。